

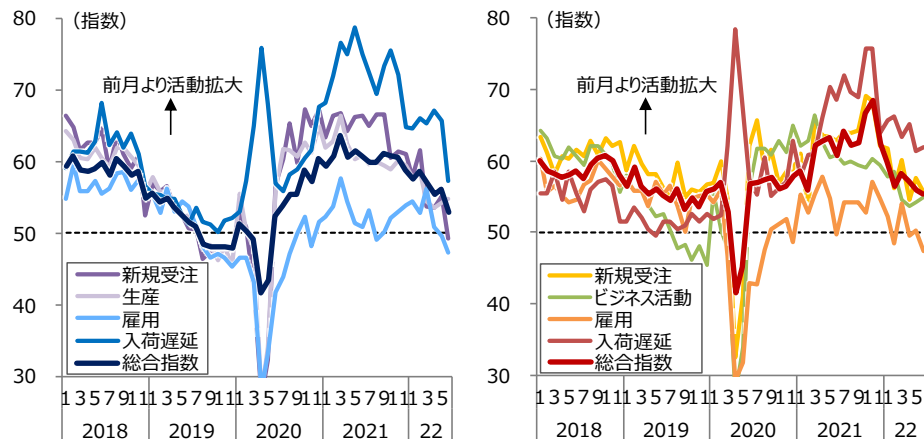
米国

ISM景況指数 (2022年6月)

20年前半以来の低水準、インフレや利上げの影響が顕在化

政策・経済センター
田中高大
03-6858-2717

1 ISM景況指数 (左: 製造業、右: 非製造業)



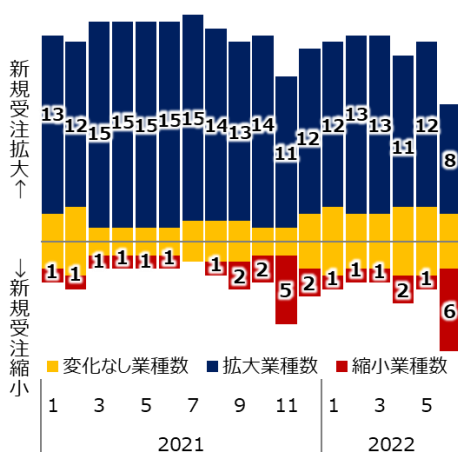
注:調査項目について、前月と比べ「改善・変化なし・悪化」の3択で行った企業アンケート結果を加重平均して算出。
出所: Institute for Supply Management® より三菱総合研究所作成

評価ポイント

今回の結果

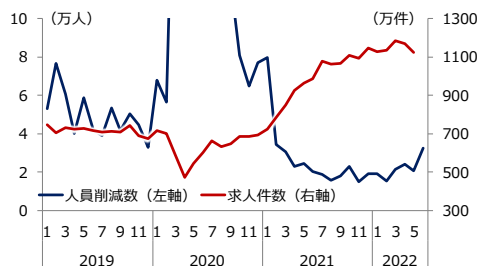
- 22年6月のISM製造業景況指数は53.0と2カ月ぶりに低下、活動拡大を示す50超を維持したものの、20年6月以来の低水準となった。
- 項目別では、新規受注や雇用が前月から低下して50を下回った。入荷遅延も前月から大きく低下し、20年7月以来の低水準となり、供給制約の緩和を示唆。サブ項目の仕入価格は78.5と、3カ月連続で低下したが依然高水準にある。
- ISM非製造業景況指数は55.3と3カ月連続で低下、20年5月以来の低水準となった。項目別に見ると、ビジネス活動、入荷遅延は上昇した一方、新規受注と雇用が低下、雇用は製造業と同じく50を下回った。
- 産業別では、建設業や家具関連などにおいて、新規受注指数が低下。製造業では新規受注指数が50を下回る業種が6月に急増した(図表2)。

2 新規受注指数 (製造業)



出所:Institute for Supply Management® より三菱総合研究所作成

3 求人数・人員削減数と企業コメント



| 業種 | コメント |
|--------|--------------------------------|
| 石油・石炭 | 人手・運転手不足がコスト増に |
| 宿泊・飲食業 | 採用難の問題が再燃している |
| 卸売業 | 金利上昇や人手不足、インフレ等の中でもビジネスは堅調さを維持 |

出所: チャレンジャー・グレイ・アンド・クリスマス、米国労働省より三菱総合研究所作成

基調判断と今後の流れ

- 米国の経済活動は拡大を続けているものの、供給制約やインフレ、利上げなどの逆風によって、拡大ペースの鈍化が鮮明になってきている。
- 入荷遅延は解消の兆しがあるものの、仕入コストの高騰が続いていることに加え、インフレや利上げによる需要減少の影響が住宅関連業種や耐久財製造などを中心に見られ始めている。
- また、製造業・非製造業ともに雇用指数が50を下回った。民間雇用調査会社がまとめた6月の人員削減数は5月から増加した一方で、企業担当者から人手不足の声が複数聞かれるなど、人材確保が制約となっている業種と、利上げにより労働需要が低下している業種があることが考えられる(図表3)。
- 先行きは、高水準な受注残やサービス業における需要回復が当面の下支え要因となろう。しかし、①人手不足や仕入価格の上昇が制約要因となることに加え、②利上げによる借入コストの上昇・需要の減少や、③米国経済の先行きを巡る不確実性の高まりから、企業活動は減速していくものと見込む。